

乙 第 号

橋本 和典 学位請求論文

# 審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

## 論文審査の要旨及び担当者

報告番号	乙第	号	氏名	橋本 和典
論文審査担当者	委員長		教授	今村 知明
	委員		教授	飯田 順三
	委員		教授	岸本 年史
	(指導教員)			

### 主論文

Smoking bans in mental health hospitals in Japan: barriers to implementation

日本の精神科病院における禁煙状況と禁煙化への障壁についての考察

橋本和典、牧之段 学、松田康裕、盛本 翼、上田昇太郎

岸本年史

Annals of General Psychiatry 14 巻, 35 頁

2015 年 10 月 29 日

## 論文審査の要旨

本研究は日本国内の精神科病院における禁煙の実態を明らかにし、禁煙の障壁となっている項目を抽出することによって、今後の精神科病院における禁煙の取り組み方の一助となることを目的として研究されたもので、日本国内の全精神科病院に対して禁煙状況、および敷地内禁煙に対する考え方のアンケート調査を行ったものである。

その結果、回答のあった病院のうち 24%で敷地内禁煙が行われ、14%で建物内禁煙が行われていた。禁煙化の障壁として患者の精神症状の悪化が危惧されていたが、アンケート結果からは「精神症状の悪化」に関しては、敷地内禁煙を施行後、顕著な問題が生じないことが分かった。また職員の反対も障壁の一つであったが、職員の喫煙に関する知識不足が関与していることが明らかとなった。これまで精神科病院において喫煙は、様々な場面において寛容にみられてきたが、精神疾患の有無にかかわらず、喫煙による健康被害を鑑みると、一般と同様の禁煙対策が行われるべきと考える。特に閉鎖病棟では常に受動喫煙にさらされる危険性が高く、精神科病院の禁煙対策は重要な課題である。

本研究の結果から精神科病院での禁煙化は実現可能なものであることが示され、禁煙化の戦略の手立てが明らかとなった。本研究は、精神障害者の禁煙を進めるうえで示唆に富む報告であり、国際的水準にも達し、精神医学に貢献する意義深い研究であるといえる。参考論文と合わせて、博士の学位に相当すると審査する。

## 参 考 論 文

1. Gray and white matter changes in subjective cognitive impairment, amnestic mild cognitive impairment and Alzheimer's disease  
Kuniaki Kiuchi, Kitamura Soichiro, Toshiaki Taoka,  
Fumihiko Yasuno, Masami Tanimura, Kiwamu Matsuoka, Daisuke Ikawa,  
Michihiro Toritsuka, Kazumichi Hashimoto, Manabu Makinodan,  
Jun Kosaka, Masayuki Morikawa, Kimihiko Kichikawa,  
Toshifumi Kishimoto  
PLoS One 9:e104007, 2014
2. 統合失調症と喫煙  
橋本和典、岸本年史  
精神科救急 16:52-56, 2013
3. Longitudinal white matter changes in Alzheimer's disease:  
A tractography-based analysis study  
Soichiro Kitamura, Kuniaki Kiuchi, Tosiaki Taoka, Kazumichi  
Hashimoto, Shotaro Ueda, Fumihiko Yasuno, Masayuki Morikawa,  
Kimihiko Kichikawa, Toshifumi Kishimoto  
Brain Res. 1515:12-18, 2013
4. 喫煙に伴う抑うつとその対策  
橋本和典、岸本年史  
呼吸器内科 17(5) :494-498, 2010

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに精神医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

平成 28 年 3 月 8 日

学位審査委員長

健康政策医学

教 授 今村 知明

学位審査委員

精神医学行動神経科学

教 授 飯田 順三

学位審査委員（指導教員）

精神医学行動神経科学

教 授 岸本 年史